

研究課題名：がん医療ネットワークナビゲーターによるがん医療情報提供強化プロジェクト：
情報が確実に手元に届く地域連携モデルの構築

課題番号：H26-がん政策-一般-007

研究代表者：群馬大学大学院医学系研究科病態腫瘍薬理学 教授 西山 正彦

1. 本年度の研究成果

本研究は、(1) 初年度(平成26年度)に、「がん医療ネットワークナビゲーター」を養成するための教育プログラムを確立し、(2) 次年度にこれらの教育プログラムを実稼働させ、初回の資格認定を目指すとともに、プログラムの実効性を評価、内容を改善、(3) 最終年度には、資格取得者を、熊本、福岡、群馬の3地域に実際に配置してモデル事業を展開、その効果と発展性、課題を検証し、研究を総括する計画となっている。

2年目となる平成27年度は、計画通り、年度末の初回資格認定を目指し、教育プログラムを実稼働させた。基盤知識習得のためのプログラムとして、1) e-ラーニングの正式受講を開始し(平成27年11月10日現在 受講者119名)、2) 教育研修セミナー(Aセッション)を京都で開催(平成27年10月31日 参加者50名：昨年度前倒開催と合わせ計798名)し、ロールプレイ等を含む、3) コミュニケーションスキル研修(Bセッション)については、ファシリテーター・マニュアル、テキストを作成、平成27年11月1日に京都大学で初回研修会を開催(参加者22名)、平成28年1月末までに、熊本、福岡、群馬と順次開催する。また、実地研修については、4) 要綱とマニュアルを完成、福岡、熊本、群馬3県で説明会を実施し、計36施設を実地研修施設に認定した。研修は平成28年1月より開始し、今年度末までに、e-ラーニング、教育研修セミナー(Aセッション、Bセッション)、実地研修を修了した者を対象に、「がん医療ネットワークナビゲーター」の初回認定に至る予定である。

1) e-ラーニング

最終的に必須習得コンテンツを34に定め、すべての講義を収録して、小テストを付加、平成27年4月1日から公開した(CANCER e-LEARNIGシステム <http://www.cael.jp/>)。平成27年11月11日現在、受講申込者119名、全コンテンツ視聴終了・小テスト修了者11名となっている。

【e-ラーニング講義一覧】

講義名	講師	講義名	講師
※がん医療におけるコミュニケーション	藤森麻衣子	※がん診療のインフォームドコンセント	松岡 弘道
※家族・遺族ケア	大西 秀樹	医療事故をめぐる法と倫理	桑原 博道
※臨床研究と倫理	佐藤 暁洋	がんの経過における正常反応と精神症状	加藤 雅志
臨床第Ⅰ相試験、第Ⅱ相試験	山本 昇	精神腫瘍学における教育	小川 朝生
臨床第Ⅲ相試験、メタ解析	柴田 大朗	心理社会的要因とがんの罹患/生存	中谷 直樹
その他の臨床研究、臨床試験	吉村 健一	高齢者/認知症	小川 朝生
※効果的なコミュニケーション	木澤 義之	日本の医療保険制度も含めた経済的視点	吉田 稔

チーム医療	梅田 恵	※がん医療ネットワークナビゲーターの役割について	佐々木治一郎
チーム医療の重要性と在り方	高石 官均	スピリチュアルペイン	田村 恵子
地域医療連携	浜野 淳	終末期をめぐる倫理的諸問題	清水 哲郎
在宅医療と地域連携 退院支援	三輪 恭子	チームワークとマネジメント	小川 朝生
がんと看護	武田 裕子	肺がん 各論	山本 信之
がんとリハビリテーション	辻 哲也	乳がん 各論	徳永 えり子
がんと栄養学	大村 健二	胃がん 各論	朴 成和
がんとソーシャルワーカー	池山 晴人	肝がん 各論	古瀬 純司
※がんと心理支援 (カウンセリング)	白波瀬丈一郎	大腸がん 各論	水沼 信之
※患者教育	長島 文夫	支持療法	高橋 雅信
※がん対策基本法	江副 聡	臨床腫瘍学(総論)	下方 智也
医療倫理に関わる規約・法律・指針/職業人としての模範	佐々木常雄	※はBセッション受講までに受講する講義	

2) 教育研修セミナー (Aセッション) の実施

初年度に続き、e-ラーニングを補完する直面式教育機会の提供の場として教育研修セミナー (Aセッション)を企画、京都で実施した[2015教育研修セミナーin京都 2015年10月31日(土) 14:00~17:00 京都国際会議場 (参加総数22名)]

3) 教育研修セミナー (Bセッション) ファシリテーター・マニュアル、テキストの作成と実施

① ファシリテーター・マニュアル、テキストの作成

講義、面談相談模擬体験 (ロール・プレイ)、振り返りとアンケートからなるコミュニケーション・スキル習得研修の詳細を確定、ロール・プレイの台本を含めたファシリテーター・マニュアルと研修テキストを作成した。

② 教育研修セミナー (Bセッション) の実施

- 2015コミュニケーションスキルセミナーin京都 (参加総数50名)
2015年11月1日 (日) 13:00~16:00 京都大学医学部芝蘭会館 山内ホール
- 2015コミュニケーションスキルセミナーin熊本 (申し込み受付中)
2015年12月6日 (日) 9:00~12:00 くまもと県民交流館パレア
- 2016コミュニケーションスキルセミナーin福岡
2016年1月17日 (日) 予定 場所: 検討中
- 2016コミュニケーションスキルセミナーin群馬
日時: 2016年1月予定 場所: 検討中

4) 実地研修

① 研修施設説明会の開催

- 熊本 2015.7.14 (火) 18:00~20:00 熊本赤十字病院 14施設42名
- 福岡 2015.8.2 (日) 14:00~16:00 福岡国際会議場 10施設22名
- 群馬 2015.9.9 (水) 18:00~20:00 群馬県庁 10施設19名

② 研修施設の認定

- 群馬：群馬大学医学部附属病院、群馬県立がんセンター、前橋赤十字病院等 9 施設
- 福岡：九州大学病院、九州がんセンター、福岡大学病院等 11 施設
- 熊本：熊本大学医学部附属病院、熊本赤十字病院、熊本医療センター等 16 施設
を実地研修施設として認定した。(平成 27 年 11 月 11 日現在)

③ 実地研修

2016 年 1 月より申請受付、随時実地研修開始予定

2. 前年度までの研究成果

初年度となる前年度は、1) e-ラーニングのコンテンツを確定して収録と監修を終了、2) 教育研修セミナー(A セッション)を、群馬、福岡、熊本でセミナーにて開催し、3) コミュニケーション・スキル研修の要綱とともに、4) 実地研修要綱とマニュアルを作成し、「がん医療ネットワークナビゲーター」の養成基盤を確立した。

3. 研究成果の意義及び今後の発展性

多くの患者にとって、がんとの闘いはすべてが未知の体験である。“知る”ことは医療と生活の選択基盤であるが、情報提供体制は十分ではない。退院後も、また、あらゆる相の病態でも、確実に国民の手元に届くがん医療情報の提供システムの確立は、「がんになっても安心して暮らせる社会」を実現するために必須の要素である。本研究は、1) 地域がん医療の水先案内人ともいえる「がん医療ネットワークナビゲーター」を配置し、がん医療情報提供体制の強化をはかる試みであり、2) 人材養成の質と事業の継続性を担保するため、日本癌治療学会、日本医師会、日本看護協会、日本病院薬剤師会等が協働し、3) がん相談支援センター/地域医療連携室在室者、ピアサポーターも含め、職種を問わない人材養成を展開するもので、がんの医療とケアの面から、医療、介護、住まい、予防、生活支援サービスが身近な地域で包括される「地域包括ケアシステム」の確立に大きく寄与するとともに、がん患者の診療と社会生活に関わる様々な情報を確実に伝える仕組みの確立によって「がん対策推進基本計画」の推進、設定目標実現の促進に貢献すると考えられる。学会の認定資格制度として質を担保し、継続的に展開する試みでもあり、職種を問わないことから、新たな雇用機会の創生、ワーキングシェアの導入機会の増加にもつながる可能性が高い。本研究は、患者の複雑な病態や多様なニーズにも対応できるよう、地域の経験や創意を取り入れるもので、明らかとなった課題は新たな政策提言に寄与し、「全てのがん患者とその家族の苦痛の軽減と療養生活の質の維持向上」、「がんになっても安心して暮らせる社会の構築」に向けて大きな推進力を持つものと期待される。

4. 倫理面への配慮

本研究は、人材養成と医療情報の提供体制の確立を目的とした研究で介入試験を伴わない。ただし、モデル事業における評価は疫学研究の対象になるとも考えられ、「疫学研究に関する倫理指針」を遵守してこれを行う。また、現在、疫学研究と臨床研究に関する倫理指針の見直しが進められていることから、「臨床研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針(平成 27 年 4 月 1 日施行)」にも配慮して研究を進める。

モデル事業の評価を行う際には、研究対象者に対する個人情報の管理、人権擁護上の配慮、不利益・危険性の排除や説明と同意(インフォームド・コンセント)への対応を含めた研究計画について、全施設の関連倫理審査委員会に申請して審査を受ける。臨床試験でないためにモニタリング・監査に関する特別な体制は構築しないが、研究代表者、分担者は、研究の適正性及び信頼性を確保するために必要な情報を収集して、研究参加機関の長にこれを報告し、依頼を受けた倫理審査委員会の審査を受け、研究参加機関の長の指示・決定に従って研究を行う。

5. 発表論文(最大5本まで)

1. Putra AC, Eguchi H, Lee KL, Yamane Y, Gustine E, Isobe T, Nishiyama M, Hiyama K, Poellinger L, Tanimoto K. The A Allele at rs13419896 of EPAS1 Is Associated with Enhanced Expression and Poor Prognosis for Non-Small Cell Lung Cancer. PLoS One. 2015 Aug 11;10(8):e0134496. doi: 10.1371/journal.pone.0134496. eCollection 2015.
2. Altan B, Yokobori T, Ide M, Mochiki E, Toyomasu Y, Kogure N, Kimura A, Hara K, Bai T, Bao P, Suzuki M, Ogata K, Asao T, Nishiyama M, Oyama T, Kuwano H. Nuclear PRMT1 expression is associated with poor prognosis and chemosensitivity in gastric cancer patients. Gastric Cancer. 2015 Oct 15. [Epub ahead of print]
3. Tjhay F, Motohara T, Tayama S, Narantuya D, Fujimoto K, Guo J, Sakaguchi I, Honda R, Tashiro H, Katabuchi H. CD44 variant 6 is correlated with peritoneal dissemination and poor prognosis in patients with advanced epithelial ovarian cancer. Cancer Sci. 2015 Oct;106(10):1421-8. doi: 10.1111/cas.12765. Epub 2015 Sep 21.
4. Yokobori T, Bao P, Fukuchi M, Altan B, Ozawa D, Rokudai S, Bai T, Kumakura Y, Honjo H, Hara K, Sakai M, Sohda M, Miyazaki T, Ide M, Nishiyama M, Oyama T, Kuwano H. Nuclear PROX1 is Associated with Hypoxia-Inducible Factor 1 α Expression and Cancer Progression in Esophageal Squamous Cell Carcinoma. Ann Surg Oncol. 2015 Aug 27. [Epub ahead of print]
5. Shimoda S, Hisamoto S, Harada K, Iwasaka S, Chong Y, Nakamura M, Bekki Y, Yoshizumi T, Shirabe K, Ikegami T, Maehara Y, He XS, Gershwin ME, Akashi K. Natural killer cells regulate T cell immune responses in primary biliary cirrhosis. Hepatology. 2015 Aug 11. doi: 10.1002/hep.28122. [Epub ahead of print]

6. 研究組織

①研究者名	②分担する研究項目	③所属研究機関及び現在の専門 (研究実施場所)	④所属研究機関における職名
西山 正彦	養成プログラム及びモデル事業の計画立案、及び研究総括	群馬大学大学院医学系研究科/病態腫瘍薬理学	教授
片渕 秀隆	がん医療ネットワークナビゲーターの養成プログラムの確立と実践、及び熊本モデル事業の推進	熊本大学大学院生命科学研究部/産科婦人科学	教授
桑野 博行	がん医療ネットワークナビゲーターの養成プログラムの確立と実践、及び群馬モデル事業の推進	群馬大学大学院医学系研究科/病態総合外科学	教授
調 憲	がん医療ネットワークナビゲーターの養成プログラムの確立と実践、及び福岡モデル事業の推進	九州大学大学院医学系学府/消化器・総合外科学 群馬大学大学院医学系研究科/肝胆膵外科学 (平成 27年 11月 1日異動)	准教授 教授